

おはようございます。
長崎大学人、河野茂です。

前は、夢についてメールしました。
たくさんの反響があり、うれしくおもっています。
ある留学生の方は自分の国でリーダーになる夢のために勉強をしている、ある海外在住の職員の方は大学のプロジェクトを推進する夢、ある学生からは子供たちから頼りにされる先生になる夢、また、今ははっきりした夢はないけど日々を頑張ろうと思う決意…などなど多くの方々からメールをもらいました。
ひとりひとりには、返事ができませんが、全部読ませてもらっています。
皆さんの夢に、元気をもらいました。ありがとう。

このように、人は誰でも夢をみます。しかし、夢をみると困難が付きまといます。
夢を実現したいという葛藤が起こります。そして、行動を始めると、少なからず壁にぶつかります。壁を越えようと、困難を克服する場面が訪れます。

例えば、私が医学部生として入学した時代のことです。
同時に入学した同級生 100 人のうち毎年 20 人~30 人が落第し、しかも当時の長崎大学は 1 学年 2 年制度という同じ学年で留年を 2 回すると放校という厳しい制度でした。
結局 1 年生から 6 年生まで同時に進んだ学生は 40 人ほどしかいませんでした。
このような状況なので卒業式も卒業アルバムもなく、誰と一緒に卒業したかもよくわからない時代でした。医師になるという夢には、予想以上の多くの困難があったのです。

医師になったらバラ色の人生を予想していましたが、収入は研修医として手取り 4 万 5 千円。結婚し、子供もいたのですが、長崎市から赤ちゃん用のミルクの支給を受けていました。大学院時代には、日本育英会から奨学金を貰い、週一回バイトに行き、4 年間の大学院生活をなんとか維持していました。

困難は、続きました。
アメリカ留学の夢と、アメリカでの現実の過酷さ。留学から戻り、開業医になるか大学の研究を継続するかを選択。研究者としての苦労の連続。若くして教授になってからの苦労…などなど。
医学部長、病院長となってからステージが大きく広く、責任が重くなるにつれて、自分自身も変わってゆき、夢は自分自身のものから離れ、人のため長崎大学のための夢になってゆきました。

困難は常に付きまといていましたが、困難に対する考え方も変わってきました。
困難は忌み嫌うものでなく、乗り越えるべきものだ。それは、皆さんも同じでしょう。
特に、この数年のコロナ禍の困難で、我々は、大きく成長しました。
困難に真っ向勝負で立ち向かう場合もあるし、逃げるのが成功な場合もあるし、スルーすることが正解な時もある。
我々は、人それぞれの方法で、柔軟になんとか乗り越えてきました。そして、本学で、夢を育てながら学んでいるのです。
そして、これからも、おそらくそうでしょう。夢をみて、困難に直面し、失敗し、もがき、それを乗り越えようとする。

実は、過去の歴史から長崎大学が消滅の危機が何度かありました。
一番の困難は、1945年8月9日11時2分、原子爆弾により壊滅的な被害を受け、900名以上の学生と職員の方が犠牲となりました。
その後、先輩方は、多くの苦難を乗り越えて、本学を再興しました。
この事実は、皆さん覚えておいてください。

ご存じのように、＜困難＞を英語に訳すると＜Challenge＞。
＜challenge＞の動詞形は、＜挑戦する＞。

さて、あなたの困難とは何でしょうか？
それをどうやって、乗り越えようと思っっていますか？ あなたの Challenge は何ですか？

私の夢は、長崎大学人の皆さんが、困難に挑戦する姿をみながら、OBとして、日々を過ごしてゆくことです。
私は、あなたが挑戦しようとする意志を、あなたが困難を乗り越えようとする姿勢を、誇りに思い日々を過ごすことです。

挑戦の結果は、時の運です。結果は大事ですが、失敗すれば、また、挑戦すればいい。それが、人生というものです。

ぜひ、聞かせてください。あなたが挑むことを。
前向きなあなたのメッセージをお待ちしております。
お気軽にメールください。
私にメールすることで、あなたの意思をあなた自身が確かめてください。